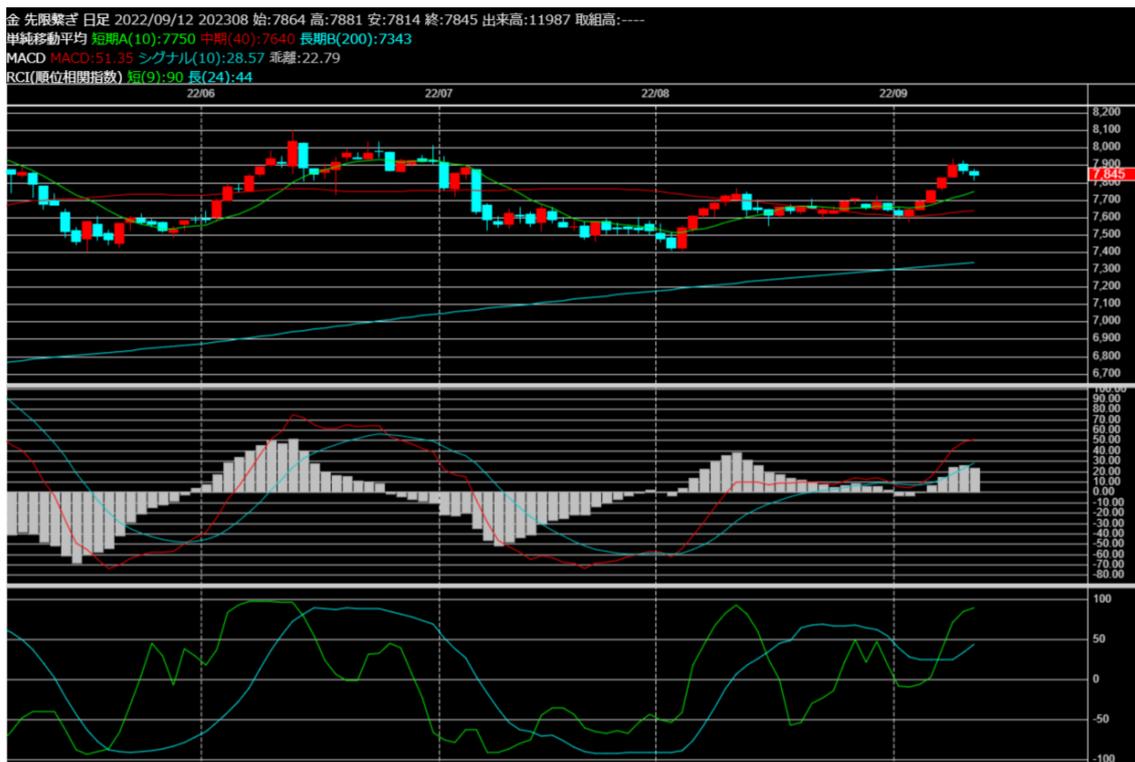


＜金標準先物、FOMC まで円高に抑えられ戻り売り基調・・・＞



(出所：オアシス)

ジャクソンホールでパウエル FRB 議長は、高インフレの抑制について「やり遂げるまでやり続けなければならない」と利上げ継続を表明し、特に労働市場は「明らかにバランスを欠いている」と発言している。そのため注目された雇用統計では、半年ぶりに失業率が0.2%悪化し3.7%となるなど、インフレ抑制の動きを見せだしている。また ECB 理事会では、EU 圏内のインフレ高に備え0.75%の利上げを実施し、急速に進む円安を受けて日銀、財務省、金融庁の三者会合を行うなど、ドル高の動きが一服しドルを買う根拠を探している。

特に13日にはCPIの発表では6月の前年比で9.1%が、7月はガソリン価格の15%の低下を受けて8.5%と鈍化しており、8月のNY原油価格も7月に比べ下落するなど事前予想も前年比で8.1%と低下しており、FOMCまでドル買いの根拠が後退するため円とユーロが対ドルで巻き戻しの動きを続ける可能性は高い。

その事で国内円建て価格は、円安の価格の後押しの要因が一時的に後退し、金標準先物で先週の高値7937円を上回る可能性は低下し、21日のFOMCまで戻り売り基調を強めた値動きが予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDが上昇し、シグナルも上昇を示している。RCIは短期が上昇し、長期も上昇するなどMACDとRCIは依然と強気を示唆している。ただどちらも目先のMACDと短期がピークまで届き、上値が止まった可能性を秘めており、7900円を超えると利食いに押される値動きが強まると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,746,000 円(2022 年 9 月 12 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 9 月 12 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>